

F- 1 ページ

(法第28条第1項)

2020 年度の事業報告書

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

1 事業の成果

①の事業では、千葉県・茨城県・福井県・静岡県・山梨県・船橋市、柏市の 7 自治体の保健所から、犬 329 頭、猫 560 頭の合計 889 頭を引き取り保護した。また前年度に引き続きスタッフ教育の強化を行った。なお施設の増改築は修繕およびメンテナンスにとどまった。

②の事業では犬 390 頭、猫 509 頭の合計 899 頭を新しい飼い主に譲渡した。飼育管理効率の指標である保護から譲渡までの平均滞在日数は、犬 30 日、猫 71 日であった。また保護後の死亡率は犬 1%、猫 11%であった。また譲渡した犬のうち、少年犬および成犬（※）は 84 頭、生後 1 年以上の成猫は 59 頭であった。 ※生後半年以上を少年犬、1 歳以上を成犬と称する。 ※本年度以前に保護した動物を含む。

③の事業では、幼齢不妊手術に関するホームページの訪問者数はのべ約 1 万 6 千人、飼育やしつけに関するホームページの訪問者数はのべ約 57 万 8 千人であった。

④の事業では①で保護した犬 356 頭、猫 512 頭と、外来の犬 1 頭、猫 68 頭の合計 937 頭に不妊手術を実施した。 ※本年度以前に保護した動物を含む。

⑤の事業では、譲渡の難しいハンディキャップを持った猫への理解を推し進めるため、実際にそうした猫を飼育する里親へのインタビューをコンテンツとして制作し発信した。同コンテンツは約 5 か月間で 1 万 8 千人以上に閲覧された。なお、全事業の合計ホームページ訪問者数はのべ約 529 万人であった。

⑥の事業では、新規事業開拓のためのニーズの調査、分析等を実施した。

⑦の事業では、損保代理店として、ウェブサイトを通じた保険の販売、情報提供などを実施した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
①行政施設で殺処分される犬猫を引き取り保護・飼育する施設（アニマルシェルター）を運営する事業	保健所や愛護センターなどの行政施設で殺処分直前の犬猫を施設に保護して、譲渡のための健康管理やしつけ等を行う。また、譲渡が困難な犬猫については、施設で生涯飼育する。	随時	法人事務所	12 名	千葉県、茨城県、福井県、静岡県、山梨県、船橋市、柏市の 7 自治体。

F- 2ページ

②行政施設から引き取った犬猫に不妊手術を施し、新しい飼育者へ譲渡する事業	前記事業で保護した犬猫たちに不妊手術を施し、新しい飼い主に譲渡する。	随時	全国	10名	・犬猫の飼育を希望する不特定多数
③幼齢避妊去勢手術の普及と犬猫の適正な飼育を啓発する事業	団体ホームページで幼齢不妊手術についての情報提供や啓発を行う。	随時	法人事務所	2名	不特定多数
④幼齢避妊去勢手術を主たる目的とした動物病院事業	団体が保護中の犬猫の不妊手術および、保護団体や個人が保護する犬猫を対象に、幼齢不妊手術外来を提供する動物病院を運営する。	随時	法人事務所附属の動物病院	5名	・犬猫を保護する団体や個人。 ・50件の外来不妊手術実施を目標とする。
⑤この法人の特定非営利活動に係る事業に関する情報提供・サービス事業	主にインターネットを通じて、前記事業すべてに対する情報発信を行う。	随時	法人事務所	3名	不特定多数
⑥その他この法人の目的の達成のために必要な事業	新規事業を模索し、開拓し、立ち上げるために必要な調査・研究・準備等を行う。	随時	全国	1名	不特定多数

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数
⑦損害保険代理業	事業を通して飼い主と動物にとってより良い生活の助けとなる保険代理業を実施する。	随時	法人事務所	2名

以上

2020 年度 活動報告

いつも当団体活動をご支援くださり誠にありがとうございます。

2020 年度の活動報告をさせていただきます。

<犬と猫の保護と譲渡について>

年度目標	受入数	譲渡数（うち成犬・成猫）	滞在日数	死亡率
犬	-	-（100 頭）	30 日以下	5%以下
猫	-	-（50 頭）	60 日以下	10%以下
合計	-	1000 頭（150 頭）		

今年度は年間の譲渡目標を犬猫合計 1000 頭としておりました。また増え続ける成犬・成猫たちにもチャンスを増やそうということで、そのうち成犬 100 頭、成猫 50 頭の譲渡も目標としていました。これらを実現するための目安として、譲渡までの滞在日数と死亡率の目標も立てていました。

実績	受入数	譲渡数（うち成犬・成猫）	滞在日数	死亡数／死亡率
犬	329	390（84）	30	2／0.6%
猫	560	509（59）	71	62／11.1%
合計	889	899（143）	-	-

※譲渡数には当年度以前に保護した子を含みます

概要

目標であった年間 1000 頭の譲渡目標には 100 頭届かず、また前年度比で 300 頭以上も減少させてしまう結果でした。うち成犬・成猫の譲渡数もあと一步のところまで達成することができませんでした。当団体の活動を応援して下さる皆様の期待に応えられなかったこと、何より助けを待っている犬猫たちに十分に手を伸ばせなかったことを心よりお詫び申し上げます。

確かに今年度は新型コロナウイルスの流行の影響もありました。しかし一年を通して保護犬・保護猫を引き取りたいという需要はあり、それに応えることのできなかつた当団体の力不足であると考えています。本年度は良い結果を残せませんでした。2019 年度から開始した活動のレベルアップのための施策がようやく芽を出し始めたところです。新年度もより良い結果を出すために尽力いたします。

F- 4ページ

なお、施設の来客者は犬面会が1060件（譲渡率37%）、猫面会1019件（譲渡率50%）でした。

※ウェブサイトからの申込データを機械的に集計。再申込も重複カウントし名寄せせず。

犬について

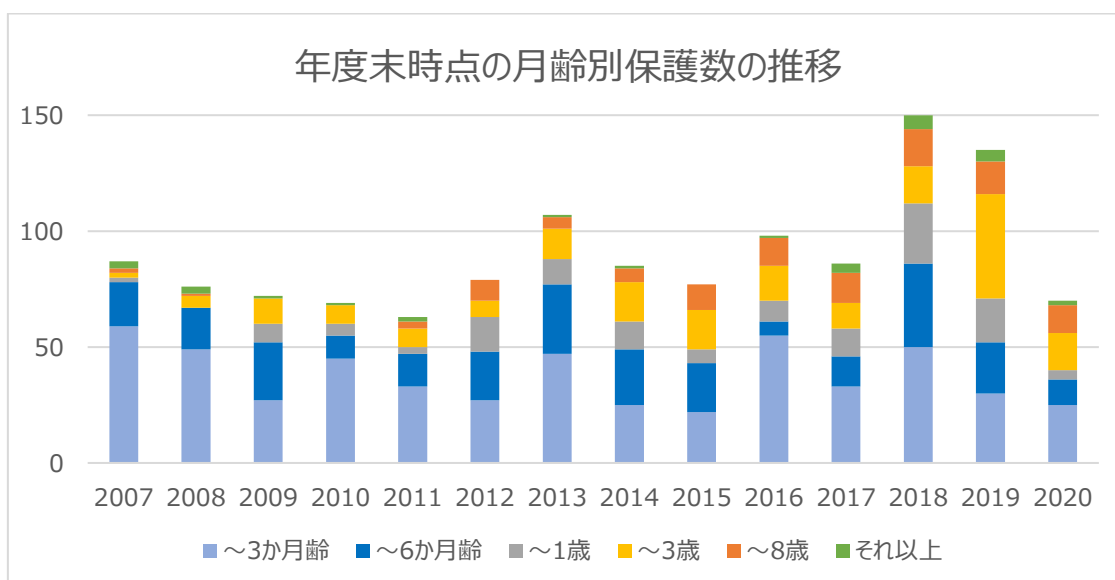
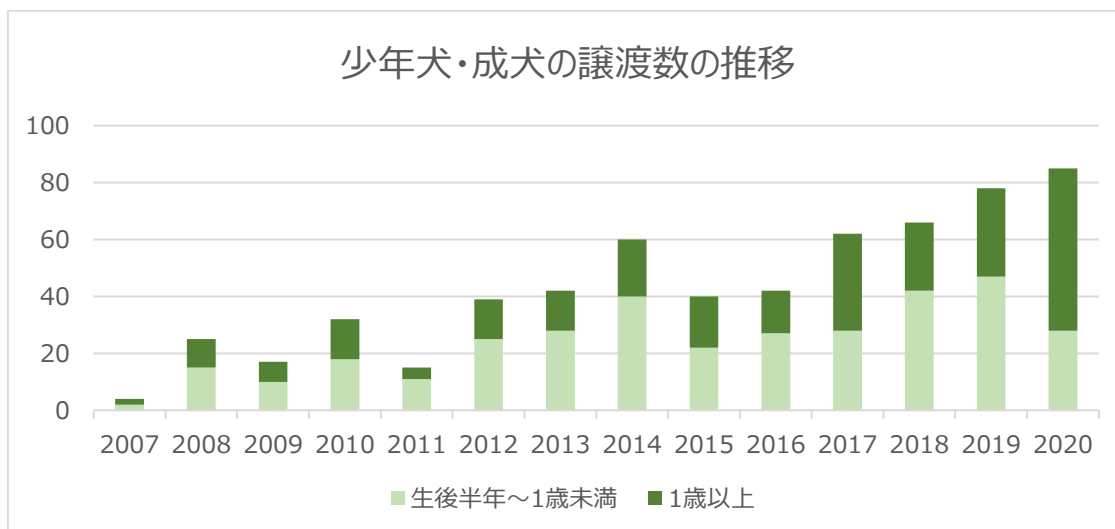
犬	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
受入	557	460	634	510	329
譲渡	531	476	575	523	390
死亡	3	3	12	8	7
死亡率	1%	1%	2%	2%	2%
滞在日数	32日	28日	35日	37日	30日

犬の受入の減少は近年の殺処分減少によるものです。当団体が受入を行っている自治体のうち千葉県・茨城県を除けば犬の受入の要請がほとんどなくなりました。千葉県・茨城県はまだまだ保護数の多い自治体ですが、とりわけ譲渡しやすい子犬や純血種の犬については飼育希望者が順番待ちをしているような状況ですので、解決の目鼻はついていると言えます。

当団体では犬の殺処分問題解決の最大のハードルは野犬の問題だと考えています。今でも特定の地域では野良犬の集団が住み着いていて、人間が保護することの出来ないまま繁殖しています。そうした地域出身の犬たちの中には、性格が臆病で譲渡が非常に難しい子が沢山います。

こうした状況を見据えた第一歩として、野犬とまでは言えないまでも性格が臆病で譲渡が難しい少年犬・成犬の保護と譲渡にチャレンジしてきました。お陰様で本年度は過去最多の80頭を超える成犬を譲渡することができました。譲渡促進のために2019年開始したInstagramは、約2年経った今では3000人近い方々にフォローしていただいています。もちろん写真や動画を見て「可愛い」と思ってもらえることと、実際に引き取ることの間には大きなハードルがありますが、小さなチャンスの積み重ねだと捉えて継続しています。

譲渡が進んだ一方で、その臆病な性格ゆえに逸走事故が散見されるようになりました。一度逃がしてしまえば保護するまでには膨大な時間と人手が必要になります。この状況を少しでも改善するため、散歩中に装着してもらおうGPS首輪の導入に着手しました。試験運用中のため詳細をお伝えするには至りませんが、本格導入に向けて進めて参ります。



※あくまで各年度末時点での瞬間値ですが、少年犬・成犬の割合が増え続けています。

猫について

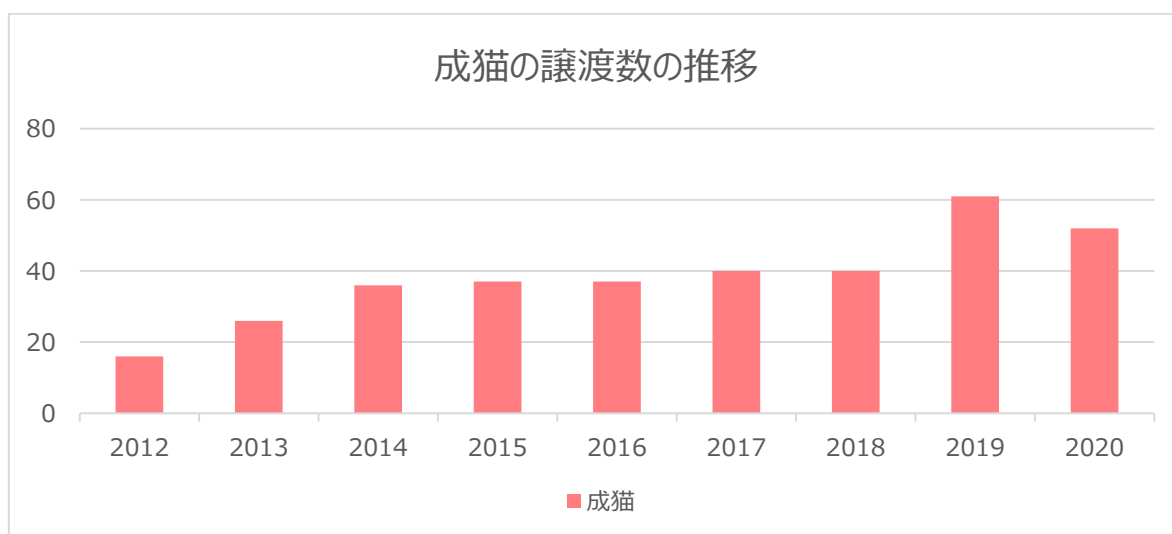
猫	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
受入	654	822	810	770	560
譲渡	616	716	723	731	509
死亡	37	87	64	48	62
死亡率	6%	11%	8%	6%	11%
滞在日数	66日	85日	97日	81日	71日

猫も受入数を大きく減らす結果でした。犬同様、保健所に持ち込まれる数が減り、必然的に当団体への受入要請も減ったことが主な原因ですが、なぜ持ち込みが減ったのかは定かではありません。ある保健所職員によると、新型コロナの影響で外出する人が減り、結果として野良猫を発見して持ちこむ機会も減

F- 6ページ

ったのではないかとのことでした。※猫は保健所が捕獲を行わないため子猫を拾ってしまった方の持ち込みが多くを占めます。

猫についても譲渡しやすい子とそうではない子がいます。本年度はハンディキャップを持つ猫の譲渡を促進するため、実際にそうした猫と暮らす里親さんへのインタビュー記事をコンテンツとして公開しました。障害をものともせず元気に暮らす猫たちと、それを温かく見守る里親さんの言葉に多くの方からの共感をいただくことができました。



※2011年度以前は年齢データが不足しているため割愛

<犬のマイクロチップ全頭導入について>

2017年4月に開始したマイクロチップ導入から4年が経ち当初の目的を達成することができました。当団体の通常活動になりましたので事業としてのご報告は今回をもって最後とさせていただきます。

<外来不妊手術について>

年度目標は50頭に対して69頭と達成することができました。主に個人で保護活動する方の助けとなるように行っているものですので今後も継続して参ります。

<人材教育・人材活用の強化について>

2019年度後半にスタッフ教育の強化に着手してから1年以上が経過しました。元々時間がかかるとわ

F- 7ページ

かっていたことですが、前進と後退を繰り返しながら少しずつ前に進めています。ここ最近になってようやく芽が出始めたことを体感できるようになりました。活動をレベルアップするために引き続き取り組んで参ります。

<施設設備の改善や新設について>

皆様のご支援を受けて 2012 年に施設を移転してから早いもので 10 年が経とうとしています。これまで数回の大幅改善で一段落したため本年度は主にメンテナンスを実施しました。

<新型コロナへの対応について>

施設内での密状態を避けるため犬猫ともに面会件数と時間を制限し、当然感染対策も行った上で面会を実施してきました。施設に来て会っていただくことが大切なこの活動においては苦しい制限でした。しかし一方で、来客が減ることで里親さんへのヒアリングには以前よりも時間をかけられるようになりました。また会議をリモート化するなど、働き方・時間の使い方を見直すきっかけにもなりました。心配なことは沢山ありますが、転んでもタダでは起きない精神で今後活かして参ります。

以上が 2020 年度の活動報告です。

今後とも皆様のご支援ご声援をよろしくお願いいたします。

2021 年 5 月 22 日

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

理事長 稲葉友治